

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語/古典探究】

1. 対象

1年次は、「言語文化」で文法事項（動詞の活用）を学習した。2年次1学期は、説話集と文法事項を学習した。真面目に取り組むが、文法事項には苦手意識がある。今单元では、文法事項から少し離れ、和歌のおもしろさ、奥深さについてみんなで味わいたい。

2. 单元名「『歌合』を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方を捉える。」（全10時間）

3. 单元の目標

知識及び技能	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。
思考力、判断力、表現力等	古典の作品を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

4. 言語活動

討論会形式の「歌合」で、二首の歌を読み比べる。

5. 本時の目標

二首を読み比べて、その優劣を討論する。

6. 授業展開

解決したい課題や問い

二首を読み比べて、その優劣を討論する。

考えるための材料

・教科書 ・国語図説 ・クロームブック ・関連図書 ・授業プリント

想定される活動

該当歌について、調べた内容をワークシートを見ながら一生懸命話す。
相手の質問には答えられないかもしれない。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【発表者】 討論形式の歌合を通して、調べ学習をした過去の自分と対話しながら意見や知識を述べ、目の前にいる相手方の話を聞くことで、二首の短歌のもつ魅力をより深く味わう。

【司会・判定】 討論形式の歌合を通して、調べ学習をした過去の自分と対話しながら意見や知識を述べ、目の前にいる相手方の話を聞くことで、二首の短歌のもつ魅力をより深く味わう。

学習の成果（予想される生徒の）

討論をする中で、特に相手方の歌に対して、新しく知識を得たり、なるほどと感じたりする。
歌の優劣を決めることは難しいと感じる。優劣を決めることは歌を楽しむ一つの側面である。